

【様式】

令和元年度 学校マネジメントシート

学校名 (三重県立四日市南高等学校)

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		高い志と豊かな人間性を育てることを基本に、一人ひとりの可能性を引き出し、自己実現と進路実現を図る。
(2)	育みたい児童生徒像	○明確な目的意識を持ち、主体的・協働的に学び、学ぶ楽しさを感じながら互いに高めあっている姿。 ○ホームルーム活動、生徒会活動、部活動、特別活動などに積極的に取り組み、これらを通じて豊かな感性、人権意識、他者への思いやり、忍耐力、コミュニケーション力、向上心などを身に付け、社会に貢献する意思と力を得ている姿。
	ありたい教職員像	○高い志と豊かな人間性を備えた生徒たちの自己実現・進路実現を図るため、関心や意欲を引き出し、知識・技能を伝え、思考力・判断力・表現力を高める教育活動を展開するとともに、自らも学び続ける教職員。 ○地域及び家庭との連携を積極的に図り、社会からの信頼を築く努力をし続ける教職員。

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待		<p><生徒> ○すべての教育活動を通じての充実した学校生活と自己実現・進路実現。</p> <p><保護者> ○すべての教育活動を通じての子どもの充実した学校生活と自己実現・進路実現。</p> <p><地域> ○学校と地域が連携した諸活動への生徒の積極的な参加による地域の活性化と、それらを通じた地域の未来のリーダーの育成。</p>	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待		連携する相手への要望・期待
	<p><保護者> ○子どもの様子や進路情報等の積極的な発信。</p> <p><中学校> ○卒業生の様子、本校の教育活動、高校入試情報等の積極的な発信。</p> <p><地域> ○学校と地域が連携した諸活動への積極的な参加。施設開放。</p>	<p><保護者> ○本校教育活動への理解と協力。基本的生活習慣の確立と家庭内学習環境の整備。</p> <p><中学校> ○本校への期待と中学生の進路希望にかかる動向の共有。本校受検生の基礎学力の定着と基本的生活習慣の確立。特に配慮を要する生徒にかかる情報共有。</p> <p><地域> ○本校教育活動への理解と協力、本校に不足する教育力の提供、本校の教育活動にかかる情報共有。</p>	
(3) 前年度の学校関係者評価等		主体的で深い学びを目指したさまざまな取組はたいへん充実しており、生徒の成長につながっている。新学習指導要領、新大学入試制度に対応するため、授業改善等をより積極的に進める必要がある。校舎の老朽化対策、ICT機器の整備、教職員の総勤務時間の縮減も、生徒にとってよりよい教育環境を整えるうえで重要である。	
(4) 現状と課題	教育活動	<p>○各教科の学習、学校行事、部活動、探究的・体験的学習等、本校の教育活動全般にわたり真面目に取り組む生徒が多い。社会の変化や高大接続改革を踏まえ、知識・技能と思考力・判断力・表現力のさらなる伸長を図る必要がある。</p> <p>○生徒指導、ホームルーム活動、人権教育、主権者教育、命を大切に教育等を通じ、社会的スキルを有し、自他を大切に、互いを勇気づけられる生徒の育成を進めている。</p> <p>○社会的もしくは人間関係上の課題、心身の成長にかかる課題等から特に配慮が必要な生徒に対して、教職員間および関係機関等との連携・協働のもと対応を進めている。さらに十分に、組織的な対応を進める必要がある。</p>	

学校 運営等	<p>○教育改革に対応し主体的・対話的で深い学びや地域との連携を核にした探究的・体験的学習の深化を進めてきた。これらをさらに広く深く展開していく必要がある。</p> <p>○地域の少子化の影響で近い将来生徒募集定数が減じられる可能性があり、教員定数の減少が予測される。教員の働き方改革、コンプライアンスの確保も急務かつ重要である。このため、業務の精選と効率化、教職員間および関係者との連携・協働の強化、危機管理にかかる仕組と意識の充実を進める必要がある。</p>
-----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

3 中長期的な重点目標

教育活動	<p>○高い志と豊かな人間性の育成</p> <p>探究的・体験的学習等を通じ思考力・判断力・表現力のさらなる伸長を図るとともに、各教科の学習等により将来を切り拓くために必要かつ重要な知識・技能等を身につけられるよう指導の充実を進め、高い志を育む。これとあわせて、学校行事、生徒指導、ホームルーム活動、人権教育、主権者教育、命を大切に教育、部活動等を通じて豊かな人間性を育み、知・徳・体の調和がとれた、これからの社会を生き抜く力を持った生徒の育成に取り組む。</p>
学校運営等	<p>○教育改革への対応</p> <p>新たな大学入試制度、新しい学習指導要領が目指すもの等に的確に対応し、授業力・指導力等の向上に取り組むとともに、探究的・体験的学習に積極的に参加する生徒の増加と内容の深化を図る</p> <p>○組織力の向上</p> <p>「生徒第一」「全体最適」の視点から安全安心な学習環境を構築するとともに、保護者や地域との連携により開かれた学校づくりを推進する。あわせて、教職員間および関係者との連携・協働の強化、コンプライアンス確保の仕組と意識の充実を進めつつ、一層効果的かつ効率的な組織運営を進めていく。</p>

4 本年度の行動計画と評価

(1) 教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
キャリア教育の充実と生徒ひとり一人の自己実現・進路実現	<p>1) 「学習のてびき」等を用い3年間の進路ストーリーを示すとともに、発達段階に合わせ進路講話・進路講演会を効果的に実施して、高度な学問への夢を引き出す。</p> <p>2) 個人面談の充実、部活動・特別活動・大学オープンキャンパスへの積極的な参加、課外授業への受講奨励などにより、一人ひとりが進路希望を実現し、社会貢献できるよう、学力の向上を図る。</p> <p>【活動指標】各学年年6回の個人面談の実施、定期的な進路説明会・講演会の実施。</p> <p>【成果指標】生徒の高校生活全般への満足度90%</p> <p>3) 外部機関との連携および総合的な学習(探究)の時間等を活用した探究的・体験的学習を通じて、思考力・判断力・表現力等をより広く深い身につけられるよう取り組む。</p> <p>【活動指標】学校外における各種学習会研修会、行事への参加</p> <p>【成果指標】参加生徒人数100名</p> <p>4) 校内外での教育的活動の状況を一人ひとりのポートフォリオ(活動記録集約ファイル)に記録し、大学入試改革に備える。</p>	<p>○「進路指導年間計画」に基づいた行事等を中心に、新たな大学入試制度に関する情報も含め、各学年・クラス単位でのキャリア教育をすすめることができた。</p> <p>○各学年年6回の個人面談の実施、全体(生徒・保護者対象)で計20回の説明会・講演会等の実施。</p> <p>【生徒の高校生活全般への満足度】90.0%(10月)</p> <p>○外部機関との連携を6~3月計22回実施</p> <p>【外部連携による探究的体験的学習への参加】1年生97名(延べ252名)、2年生67名(延べ123名)、3年生7名(延べ</p>	◎ ※

		7名)、合計171名(延べ382名)参加 ビブリオバトル・乳幼児ふれあい実習(1年生全員参加)、修学旅行調べ学習・人権調べ学習(2年生全員参加) ○1・2学年では、生徒一人ひとりの活動記録「ポートフォリオ」を作成した。	
学習指導の充実	<p>1)「主体的・対話的で深い学び」を目指した授業により、将来にわたって通用する学力の向上を図る。</p> <p>2)高大接続改革に伴う思考力・判断力・表現力を問う形式の設問に対応できる力を養う。</p> <p>3)「予習→授業→復習」の学習サイクルに基づいた学校(授業)中心の学習習慣が定着するよう取り組む。</p> <p>4)生徒による授業等の評価の実施</p> <p>【活動指標】生徒による授業等の評価の実施 【成果指標】生徒の授業への理解満足度90%</p>	<p>○広く深い「知識・理解」、「思考力・判断力・表現力等」の高まり、「人権が尊重される授業」づくりの3つの視点を重視した授業づくりを通じて、生徒の学力や自己肯定感等をより高めるため、生徒による授業評価を行い、その結果を踏まえた授業改善をすすめる取組を行った。</p> <p>【生徒の授業への理解満足度】83.5%(10月)</p>	◎ ※
豊かな人間性と高い志の育成	<p>1)自他の命の大切さについて様々な機会に触れ、いじめのない安全安心な学校生活を営むことができるよう、命を大切にする教育にかかる指導計画・学校いじめ防止基本方針等に基づき取り組む。また、マナーや挨拶・服装指導を通じて、社会人としての品性を身につけられるよう取り組む。</p> <p>【活動指標】各学期のいじめに関するアンケートの実施</p> <p>2)「NOLTY スコラ(手帳)」を積極的に活用することで、学習時間と部活動等を軸とする生活リズムの確立と自己管理能力の育成を図る。</p> <p>3)学年・ホームルーム経営、学校行事への取組、部活動、人権教育、保健指導、教育相談、特別支援教育、読書指導等を通じて、自己肯定感の涵養、豊かな社会性の育成を進める。また、特に大きな課題、重い課題、個別の課題を抱えた生徒に対しては、必要に応じて専門機関等と連携しながら、適切に支援する。</p>	<p>○「命を大切にする教育年間指導計画」を基に、さまざまな機会に自他の命の大切さや他者と連携・協働し、これからの時代を主体的に生き抜く力を身につけることを目指した取組をすすめることで、いじめのない落ち着いた学習環境が保たれている。</p> <p>○すべての教育活動を通じて、進路指導や学習指導だけにとどまらず、生活指導や特に配慮が必要な生徒には養護教諭や教育相談係との連携による適切な支援を行うことにより、豊かな人間性と高い志の育成に努力できた。</p>	◎ ※
改善課題			
<p>生徒に寄り添ったきめの細かい学習指導、進路指導、生活指導等により、落ち着いた学習環境が保たれている。これからの社会を生き抜いていくために必要な主体性・論理的思考力・協働性や表現力等を身につけようと、外部教育力を取り入れた「探究的・体験的活動」に生徒は積極的に取り組み、大きく成長できた。</p> <p>また、高大接続・新学習指導要領に対応した授業改善も積極的に行われつつあり、生徒の進路希望実現、高い志、学力向上を目指し、今後もキャリア教育の充実をすすめる必要がある。</p>			

(2) 学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重要取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
組織力の向上	1) あらゆる教育活動に関し、教職員間の積極的な情報共有を進め、職員が一丸となって取り組むことのできる体制をつくるとともに、保護者や地域との連携により開かれた学校づくりを推進する。あわせて、教職員間および地域とのより適切な協働を進めつつ、一層効果的かつ効率的な組織運営を進めていく。 【活動指標】 職員会議を中心に、各委員会・各学年会・各分掌会での積極的な情報共有 【成果指標】 職員の情報共有に対する満足度 75%	○各種会議での情報共有、意思疎通を図り、組織的な取組・教育活動をすすめることができたが、個々の教職員の力量に頼らざるを得ない取組も見受けられる。 【職員の情報共有に対する満足度】 84.8%	◎ ※
専門性の向上	1) カウンセリング・コーチング・特別支援教育等に焦点をあてた現職教育を実施し、教職員のこれらにかかる専門性の向上を図る。 2) 新学習指導要領への対応を意識したカリキュラムマネジメントを進め、授業と評価の改善を図るとともに、新しい教育課程の検討を進める。 3) 高大接続、大学入試制度改革等の情報を積極的に集め、また現職教育や校外研修に積極的に参加し、学習指導・進路指導・生徒指導等にかかる専門性の向上を図る。 【活動指標】 各種現職教育の実施、校外研修への参加 【成果指標】 職員の専門性向上への満足度 90%	○校内現職教育（人権教育・コンプライアンスミーティング・校長通信等）や各種校外研修（授業改善、教育相談、進路情報交換、入試分析等）への積極的な参加により、幅広い情報や知識が集められ、生徒への指導や対応に活かされている。 【職員の専門性向上への満足度】 63.0%	◎ ※
働きやすい職場環境づくり、コンプライアンスの確保	1) チームで仕事を分け合い、より適切に連携・協働しつつ働く仕組みや運営方法を整える。 2) 月に一度の定時退校日、週に一度の部活動休養日を設定し、総勤務時間の縮減を図る。 【活動指標】 月に一度の定時退校日、週に一度の部活動休養日の実施、放課後に開催され 60 分以内に終了する会議の割合 95% 【成果指標】 時間外労働時間 4 時間／月削減、休暇取得日数 1 日／年増加、月 100 時間・2～6 か月平均 80 時間を超える時間外労働者を 0 人 3) コンプライアンスがより確実に確保されるよう仕組みを整え、危機管理意識の強化を図る。	○分掌・各種委員会の構成等の見直し、副担任の増員、拡大学年会の実施など、チームで仕事を分け合い、連携・協働を目指した取組をすすめた。 【平均時間外労働時間】 1.3 時間／月増 (2 月現在、昨年比) 【平均休暇取得日数】 0.1 日／年減 (2 月現在、昨年比) 【月 100 時間・2～6 か月平均 80 時間超】 延べ 36 人 (2 月現在) 【県教委によるストレスチェック】 総合健康リスク (H30) 97→(R1) 81～低減 ○毎職員会議や校長便り、グループウェアでのアンケートの実施等を通じて、コンプライアンス意識の向上を目指した取組をすすめた。	◎ ※
情報発信	1) 地域に対して、積極的に情報発信・情報提供を行う。その手段の一つとして、学校 Web ページをより適切に運用する。	○学校 Web ページ上で、諸活動予定、学校行事や「探究的・体験的学習」等を中心とした学校生活の様子を紹介するなど、年間約 70 回発信した。	◎ ※

改善課題

業務改善や負担感の軽減を目指した教職員の意識は高いが、生徒へのきめの細かな様々な指導に費やす時間は長く、総勤務時間の縮減も困難なものとなった。

チームで支えあい、補い合える組織づくりをすすめるとともに、近い将来予想される募集定員、教職員定数の減少に向け、さらに取組をすすめていく必要がある。

5 学校関係者評価

明らかに 改善課題と次へ の取組方向	○多岐にわたる外部教育力を利用した「探究的・体験的活動」は、子どもたちの大きな成長につながっている。さらに「深い学び」につながる働きかけに期待したい。 ○教職員の子どもたちへの熱心な指導に感謝する。教職員のワークライフバランスの視点も取り入れながら、総勤務時間の縮減に向けた取組をすすめてほしい。 ○子どもたちの安全で安心した学校生活には、施設設備の改善が不可欠である。部分的な修繕ではなく、改築改修に向けた要望をよりすすめてほしい。
--------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

6 次年度に向けた改善策

教育活動につ いての改善策	○生徒の進路希望の実現に向けた学習指導、希望実現外部連携による「探究的・体験的活動」と「総合的な探究の時間」のつながりを意識したキャリア教育をより充実させる。 ○ICT機器の導入に伴い、新学習指導要領、新大学入試制度に対応するため、「主体的で、対話的な深い学び」を目指した授業改善をさらに積極的にすすめる。
学校運営につ いての改善策	○より効果的・効率的な学習指導・進路指導・生徒指導を目指し、各学年・各分掌間の情報共有・連携をすすめ、組織力の向上を図る。 ○各学年分掌の業務の見直し、仕事の平準化をすすめながら、学校教育の質を落とさず、総勤務時間の縮減に向けた取組をすすめる。